

芳野よしの  
（河野鉄兜こうのてつとう）

山禽さんきん 叫断きようだん 夜よる 寥々りようりよう

限りかぎ 無きなの 春風しゅんぷう 恨うらみ 未だいま 銷せずしょう

露臥ろがす 延元えんげん 陵下りようかの 月つき

満身まんしんの 花影かえい 南朝なんちようを 夢ゆめむ

山禽叫断夜寥々 無限春風恨未銷  
露臥延元陵下月 滿身花影夢南朝

解説 芳野に遊び、南朝をしのんだ作。

語釈 ※山禽＝山の小鳥。※叫断＝叫んで。※寥々＝淋しいさま。  
夜が更けたさまにもいう。※露臥＝野宿する。※延元陵＝後醍醐  
天皇の御陵で、いわゆる塔尾陵。

通釈 山中の鳥の叫びが響き渡り、深々と夜は更けてゆく。吹き  
やまぬ春風も、いまだにはれがたい後醍醐天皇の無念がこもって  
いるように凄まじく感ぜられる。せめて今宵はみ霊を、お慰め申  
そうと、陵のほとりで月光の下に野宿をすれば、白々と咲く桜の  
花かげを身に一杯映しながら、いつしかまどろんでしまい、南朝  
のことを夢みていたのである。